創刊大正11年
明治大學新聞
週刊
毎週　木曜発行
定価10円
©明治大学新聞学会1972
発行所　明治大学新聞学会
東京都千代田区神田駿河台（明大）
電話　代表（293）局五八一一（内409・412）
購読料　一年分（送料共）一五〇〇円　二年分（送料共）二五〇〇円

戦旗派による生協（和泉）の営業妨害濃厚

党派間政治の矮小化を拒否し

大衆的な論争として止揚せよ

生協労組・反戦および社学同情況派（農・工学生会の立場を主張）と中部・西部地区反帝戦線（共産同戦旗派）の武装衝突は、その本質的問題を「党派闘争」としてみるか、「生協問題」としてみるかで、一人一人にその立場性が迫まられている。たとえ十二日の武装衝突が「党派闘争」として現象したとはいえ、生協労組（妹尾委員長）の問題を、戦旗派および学生会中執（新藤委員長）の見解通り、「情況派十野合グループ」として片づけることのできない問題である。たとえそれが戦旗派の主張するとうり、「党派闘争」であったとしても、それが「大衆」と一切無縁な地平にあるものでもない。その意味においても編集部は、ありもしない客観的存在に立ち得るはずもない。また、一年有余に渡る新聞学会闘争を闘ってきた〈われわれ〉が、自らと「関係のない」こととして通りすぎることもできない。〈われわれ〉は〈われわれ〉なりにその立場性を最大限表明し、〈表現〉すると共に、運動としてもそれを〈表現〉しなければならないことをはっきりと確認する。この問題を単に党派政治として終焉させることなく、大衆的な批判・反批判を展開する中から、革命主体の止揚を計らねばならないと考える。（編集部）

十二日、和泉における生協労組・反戦および社学同情況派（農・工学部学生会の立場を主張）と日本反帝戦線（戦旗派）の武装衝突は、その後大きな衝突もなく、相方とも大衆情宣活動を続けている。

相方の見解の対立は、事実性すら真向うから対立し、当事者以外にはその事実すらわからない状況を呈している。

十二日の和泉における武装衝突の局面のみを見るならば、戦旗派と情況派の党派闘争として現象したと言える。

しかしながら、生協労組の主張する戦旗派の「政治献金要求」、「営業妨害」問題の追求が、党派闘争として現象化した、その本質を解明するものとなるだろう。

その時、もっとも重要な点は、和泉生協の十二日から十四日午前までの「閉店」がいかなる理由によってなされたかにあるだろう。

今回の問題を「党派闘争」として主張している戦旗派はその点については、学生会中執のアピール（二面参照）の中で「移転妨害」がなかったとの唯一の理由を、「書籍部は学館に移転し、平常通り現在も営業をおこなっているではないか。それが動かぬ証拠である。」としている。しかし、この唯一の根拠は「平常通り現在営業をおこなっている」ことでは何ら証明さるうるものではない。

この辺の事情を前原和泉担当理事は次のように語っている。「十二日の夕方、戦旗派の諸君が十数人きて『話し合いがつくまで鍵を預けてくれ』と要求してきたので、ナグラレタリオド力されたりしたっていうのでそんな訳で不本意ながら鍵を渡した。」こうして戦旗派の諸君（学生会中執？）が鍵を持っていき、十四日の一時半頃鍵を返しに来たことは宮崎生協専務理事も確認している。

これらのことから戦旗派が生協の閉店を「確認」したことは、ほぼ事実であろうと思われる。

それではなぜに戦旗派が和泉生協の営業を妨害したのかは明らかではない。ただ、それを一定程度明らかにするには、和泉生協書籍部の和泉新館一階ロビーへの移転の経過を知らなければならない。

書籍部移転問題は昭和四十六年一月十六日に既に学生会中執（同川委員長）と「覚書」（二面参照）が交わされ、同年十月四日に正式に「覚書」（本紙前号「資料」参照）が学生会中執（松原委員長）、和泉地区学生会館運営委員会（大塚委員長）と生協（市毛理事長）との間で交わされている。

その内容は、より多くの学友の学生会館利用という面からこれに賛同」として非常に好意的に賛同していながら、移転工事も終わり、具体的に移転営業が開始された八日頃になって、営業の延期、さらに改造の「意見書」を提出している。

この「覚書」と「意見書」の内容は論理的に矛盾する。前者では学生が学館を多くの学友が利用することに賛同し、後者においては多くの学友が利用することによる「諸々の混乱」を憂慮している。その「諸々の混乱」についての具体性は十日の時点の、前原理事と学生会中執の間での話し合いの中でもとりたてて出ず、強いていうならば、「タテ看が書けない」（前原理事談）ぐらいであったという。

「覚書」の主旨からいうならばタテ看を書く場所の問題はさして重要な問題ではありえない。「意見書」の中でより重要なのは、本校学館が数度の学館解放闘争で、「解放」を勝ちとりながら、「本校学館が当局によって封鎖されている」とする意識性、さらにはそのことによって「和泉学館の利用のウェイトが非常に大きい」として、それをそのまま容認しているところの問題性である。

このようなことでは、学生会中執が学館解放闘争を把えきれていないとする批判はまぬがれない。

書籍部の学館移転問題自体、六月以降の本校学館解放闘争が、学館解放委員会を中心として全学の諸戦線を結集して闘われていたその時、「生協の学館使用」が会議の中で問題となりつつも、中執は「覚書」で交わされたような位置づけを表明しなかった。当然にも生協と中執のそうした関係を、学館解放闘争を担っている諸戦線に計り、了承を得るべき問題である。それは同様に、生協労組・反戦が、生協移転によって、学館の解放をかち取ってきたと語るならば、諸戦線との関係において総体的なものとして語られなければ、意味をなさない。中執のその問題は、「覚書」にとどまらず、「意見書」においても同様であろう。

さらに、「意見書」の内容について語るならば、書籍部の入口を別に造ることを要求している。このことも「覚書」の主旨からして、論理的に矛盾していると言わねばならない。そして要求項目の入口を別に造るには、新たに壁をブチ抜き、扉をかけなければならない構造に和泉新学館はなっている。

だが、十日の話し合いの中では学生会中執は一定の条件のもとに「移転」を認めている。

それにもかかわらず、戦旗派が、十二日になってから、移転問題の「話し合い」がつくまで鍵を預かったのか。

以上のような点を踏まえてくるならばその背景に「政治献金要求」の問題がほのみえなくもない。しかし「政治献金要求」の事実は、最終的には直接的な当事者である、篠田生協理事と「共産同戦旗派の某幹部」（篠田理事談）にしかわからないことである。それは大衆自身が総体的な分析によって判断を下す以外にはあり得ない。

十四日、和泉でまかれた戦旗派のビラでは、逆に篠田理事の方から「政治献金の進呈」を申し出ていることとなっている。それがどちらが事実か重要な問題であるには違いないが、こうした問題は、党派間政治として、大衆には一切秘密的になわれていることが問題なのであり、こうした事態にあってのみ、大衆の前に提出されても「迷惑」を受けるのは大衆自身でしかない。

戦旗派の主張することが事実であるとするならば、こうした事態となる前に（その時点で）そのことを大衆的に明らかにし批判すべきであっただろう。

こうした多くの問題がありつつも、十二日和泉における武装衝突は、一切大衆的に批判・反批判を展開することなく、満足な情宣すらなされることなく、初めから武装衝突として現出させた、生協労組・反戦および情況派の責任もきわめて大きい。

例え、農・工学部学生会・情況派の主張を全面的に認めたとしても、「社学同」のヘルメットをかぶり、完全武装で和泉に登場した場合、「どちらが先に手を出したか」の問題ではありえず、武装衝突が不可避なことは、情況派自身理解できていたであろう。

「大衆運動の防衛」を語る彼ら自身、大衆的な運動を展開する以前に、党派闘争――内ゲバとしてしか現象化しえなかったことの責任は免がれない。

情況派自身、原則性を語りつつ、自ら原則をふみはずした行為は、政治党派としての、「思わく」が先行してしまった表われではないのか。その意味では、戦旗派の語る「口実を捜していた」という批判は当っているかも知れない。

生協労組・反戦自身がその問題を捉えきることなく、自らの運動、闘いを表出させてしまった点をハッキリと総括し、自己批判しないかぎり、さらには、情況派との関係を明らかにし、労組としての自立性を獲得しないかぎり、生協組合員への説得性をもかちえないであろう。

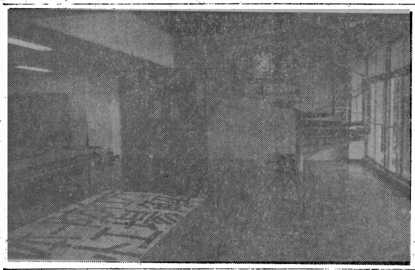
「政治献金問題、営業妨害問題」は一般的には、経営者＝理事者側の問題でありながら、生協運動総体を捉える中から、労働組合、労働者の利害のみならず、普遍的問題を労組問題として捉えた点は評価されるべきかも知れないが、そのためにも、自らの正当性を語るならば、原則的運動――闘いを展開することが今こそ要請される。そのことはこれまでの、生協労組と生協組合員との関係性の総括を抜きにしては考えられないだろう。（われわれもまた同様である。）矮少な論争に陥し入れることなく、生協運動を、生協の組織性（理事者――労働者）をも捉えていかなければならないであろう。大衆運動の原則性を再度総括する必要があるだろう。

今回の問題で象徴されるものは党派闘争と大衆の関係であり、また、党派間政治が大衆を一切排除、疎外した形によっておこなわれてきたことの問題性ではないのか。

例えば、戦旗派と情況派における「地区分担的協定」（本校・和泉――戦旗派、生田――情況派）なるものが存在し、それは全く大衆を愚弄するものとして存在していることの問題性としてあるだろう。

14日 和泉・生田両学生会館に機動隊

さる十四日早朝、和泉・生田両学生会館に対し、機動隊を動員しての立ち入り捜査が行われた。これは、和泉学館に関しては十二日の生協労組・情況派と反帝戦線の衝突、生田学館に関しては十三日夜の戦旗派による生田襲撃などの裏付け捜査であるという。捜査は十四日午前六時すぎから始められ二時間ほどで混乱もなく終わった。



資料1　確約書

日本反帝戦線議長
米田隆介殿
昭和四十七年一月十二日
明大生協和泉担当理事　前原和彦㊞
明大生協和泉店長　小原勝美㊞

昭和四十七年一月十二日正午頃和泉校舎内でおきた件につき以下の点を確認する。

一、同日明大生協名で発表した「組合員の皆様へ」という掲示に関して、その事実経過と発表者（生協という名目上の責任者の名前ではなく実質的責任者）の究明について責任をもって明らかにする。

一、事件中、生協の車を使い生協従業員等が加わっているものと判断されるのでこれについてその参加者の名前行動について責任をもって究明する事を確認する。

右記につき真相を究明し、当月十九日に再度会合しての報告を行い、尚必要とする場合は継続して会合をもつ事を確認する。

資料2　確約書

日本反帝戦線議長
米田隆介殿
昭和四十七年一月十三日
明大生協専務理事　宮崎純治㊞
略（資料1と同内容）

労組の主張する経過

十二月二十六日　戦旗派某幹部から政治献金要求。一応拒否。
一月五日　最終的に政治献金拒否。
六日　生協和泉書籍部の新学館移転のため書棚搬入。
七日　〃
九日　本の移動開始。中執より「ロビーの使用出来なくなる」「入口を変更せよ」等の理由で移転、開店の中止要求。一理事より政治献金要求の話しを聞かされる。
十日　通常通り営業。
十一日　K学生理事（情況派）、S学生理事（戦旗派）へ政治献金拒否。カンバン作り。（戦旗派に対する自己批判要求。）
十二日　午前九時、生協食堂のカギが壊され（編集部注・前原理事確認）カンバンがない。戦旗派二〇名位が店を強制的に閉めさせる。戦旗派Y副主任に暴行。カンバンの内容の自己批判迫る。
中略
午後二時頃、戦旗派生協事務所におしかけ、カギをもち出す。（戦旗派否定。）
十三日　和泉学館占拠。午後一時頃、戦旗派（一〇名程度）生田襲撃。午後七時、戦旗派ゲリラ的に生協生田店購売部破壊。
十四日　午後十一時頃、生協本部の専務の所に和泉地区店のカギを返しにくる。

戦旗派の主張する経過

十二月　中執人事問題で、篠田理事より戦旗派に政治献金することを申し入れる。
一月　生協、書籍部新設を四月と言っていたのに、急に工事を開始し、八日には完成させてしまった。
七日　生協移転に関する「意見書」提出。
十日　生協側と一定の条件で書籍部の開店で同意。
十一日　午後十一時頃、学生情況派、生協内情況派計二〇名程、学生会中執の部屋より、スッティング用具、ビラ、ヘルメット、旗ザオ等を盗み出した。
十二日　前原理事、小原和泉店長と「確約書」交わす。（資料1参照）宮崎専務理事と「確約書」交わす。（資料2参照）

情況を自らの「生」で切り開け

学生課へ実力で抗議

来年度学費闘争の戦線を

昨年十二月二十三日、連合教授会介入で確約された「全学説明集会」は前号でも明らかにされたように当局により一方的に拒否されてきた。全学の戦線が冬休みをはさみ、受験料値上げ―学費値上げ策動を粉砕すべく新たな胎動を開始せんとした矢先、当局の一方的拒否―なし崩し的居直りを許すことができないと抗議集会に結集した約七十名の学友。

集会そのものは、いつもの様に受験料粉砕を叫び、形どうりの街頭デモに移り、記念館前で抗議のシュプレヒコールを繰り返す。

その直後、突如隊列は学生課、教務課に押し入らんとするが、当局はあらかじめ察知していたらしく、鍵をかけていた。部隊は数度突破せんとしたが果たさず、「通路」にバリケードを築き、再度隊列を整え、四号館へ向う。

昨年の学費闘争の高揚は当局の巧妙な「見送り―受験料値上げ」に対し、すぐさま受験料値上げ阻止の戦線を生み、たびたび、団交要請を行ってきた。にもかかわらず当局は一方的にこれを拒否し、さらには学生部長の確約、説明集会の開催さえ、拒否してきているのである。

当局のこのような居直りと引き延しに対し、連合教授会介入をしてまでも、明らかにさせる正当性が学生には断固あるだろうし、十四日、学生部長個人の確約までも破棄してきたことは断じて許せないだろう。

このような卑劣な策動そのものが、権力の論理そのものであることは明らかであるし、それに対する抗議としての同日の学生課、教務課突入があるだろう。

しかしながら、当局の69年以降の闘争圧殺行為を許してきたものは、69年10・9以降、大学の再編―「正常化」策動に対決しえなかった。自らの戦線の弱さとしてあることを、われわれは深くとらえなおす必要があるだろう。

われわれにとって、われわれを深くとりまいている情況そのものの重みを背負うべき闘いが、今や白々しさを伴って現われていることが問題であり、一人一人の生の重みが表出する闘い、情況を鋭く切開する闘いが要請されているだろう。

そして、さらにいまのこの情況を自らの痛みを持って見守っている学友一人一人がこの日常を、そして自らの日常との鋭い緊張感覚の中でのりこえる方途を模索せねばならない。

「自分と自分のまわりの情況を何をやっていいのかわからない状態と見る事は、おそらく自分が平凡な学生にすらなりきれなかった事の証拠に他ならない。」という中にある「平凡」とは、何かしら授業をうけ、マージャンをやりパチンコをやることではないし、自らの生の方途を深くとらえかえすことに他ならない。その重みの中に現在、情況を真に切開する道があるだろうし、自らの生と闘いのからみ合いがあるだろう。

われわれは今回の学費闘争の闘いを真に総括し、四月以降の闘いの戦線を構築していかねばならない。学費闘争の中で多くのクラス闘争委、サークルでの闘いを真に一つ一つとらえ直し、四月以降、新入生と共にさらに大衆的な闘いを展開しなければならない。様々な領域で様々な形態の学費闘争を展開せよ。

本年度入試受付始まる

学費値上げの一環としての受験料値上げ阻止が叫ばれる中で、本年度入学試験願書受付が「受験料値上げ」の「説明」もないまま強行開始された。すでに受付を始めているのは一部全学部と短大二学科（いずれも一月二十日より）・二部の受付は遅れて二月十五日より開始される。締切日は一部―各学部の試験日の十日前、二部―各学部の試験日の五日前。短大は二月二十二日まで。いずれも郵送出願のみ。入学試験は二月十九日の一部法学部を皮切りに三月八日（二部文・政経）まで続く。

自己批判を要求する

12日以降表面的に現象した問題に関し、われわれ、マップ共闘は今回の問題を原則的な大衆運動の問題に引きもどすために「関係三者」に対し自己批判を要求する。

学生会中央執行委員会に対し

一、生協の学館移転に関する「覚書」、及び「意見書」を大衆的に明らかにすることなく、とりわけ、学館解放闘争を担うすべての戦線に提起しなかったこと。

二、12日、13日「生協」を休店にせしめたこと。

農・工学生会に対し、

一、生協労組の自立した運動を保証することなく、とりわけ、12日、「生協問題」を「党派闘争」として現象化させたこと。

生協労組に対し、

一、情況派の無原則的な対応を許し矮小なゲバルトに結果させたこと。

今回の問題が中執のいうように党派闘争であるとしても、それが大衆とかけはなれた時点でなされてはならないし、「生協」をめぐっておきたことは否めない事実であると考える。そして、われわれは、生協運動を真に大衆的に自立させ、発展させていくことが今後の明治大学内における大衆運動をも原則的に展開し、発展させていくカギであると考える。以上をふまえ、三者に対する自己批判要求を明らかにしたい。

マップ共闘

学生会中執殿
農・工学部学生会殿
消費生活共同組合労組殿

会告　編集員募集

〈あなた〉が〈あなた〉でありつづけ
〈ぼく〉が〈ぼく〉でありつづける
〈ぼくら〉ということのできぬ
〈あなた〉へ
〈　〉でありつづけることによって
〈連帯〉していこうとする
〈あなた〉へのアプローチ

明治大学新聞学会
本校本局旧学館一階
TEL（二九三）（五八一一）内線409・412
和泉支局一号館二階
（三九一）五九〇八

生きた英語の総合雑誌
時事英語研究
1月号　二五〇円
＜特集＞ブラック・アメリカンズ
＜英文＞ドルかSDRか？／中国の国連加盟について／そのほか2編
＜映画＞八点鐘が鳴るとき

文学・語学・文化情報
英語研究
1月号　二三〇円
特集・日英語表現を比較する
日本人のための英作文／表現の様式と文化の様式／英語は日本人にとって何なのか／日英語表現の相違▶同時通訳―是か非か▶新連載・現代英米文化展望（米国の辞書）▶英文エッセイ／詩の鑑賞／語法診断／アメリカ英語散歩／演習講座他
東京新宿神楽坂1　研究社出版株式会社　振替東京83761

流動　2月号　￥180
特集・二十代の思想
〈論〉芝山幹郎〈音楽〉山下洋輔
〈演劇〉三原元〈評論〉津村喬
〈ミニコミ〉平林千春〈兵役拒否〉古藤晃
〈ウーマンリブ〉福田みずほ〈二十代論〉平岡正明
地球に氷河時代がやってくる　根本順吉
夢ではない「金星移住」計画　長友信人
これが大地震の全貌だ　五十嵐俊勇
まちがいだらけの平賀源内像　大矢真一
小説　八切止夫　谷川健一
その歴史と氏族――●各県別年表付
日本人研究　板坂康弘著
1巻（￥660）青森・宮城・群馬・千葉・愛知・山口
2巻（￥630）京都・奈良・香川・愛媛・広島―各県人―

自然　2月号　250円
女性科学者ロンズデール　渡辺得之助
（天賦の資質と燃える信念の女性結晶学者）
□核燃料再処理施設は万全か？……猿橋勝子
□大空気シャワーの発見……菅浩一
□重金属による環境汚染……都留信也
□地球の環境モニター……環境問題委員会
＜新シリーズ　かに星雲物語①＞
"かに"はこうして天文学に登場した
ヴィヴィッドな現代天文学の案内・石田五郎
□社会のなかの科学……広重徹
□ローマ字表記法の一提案……ロゲルギスト
サザランドとサイクリックAMP
第2メッセンジャーと発見者の横顔　石川榮治
東京・京橋　中央公論社

勁草書房
独占と兵器生産　竹内民郎著
―リベラリズムの経済構造―
国際通貨危機に象徴されるごとき世界史の転換に際して、視点を独占形成と兵器生産の問題にすえながら、帝国主義段階の政治・経済・文化の諸構造を総括し、あわせて七〇年代における変革主体形成の課題を明確にする。A5判上製／二三〇〇円
和田英夫著　新訂　憲法体系　A5判上製　一二〇〇円
日本の思想界　●戦前・戦中・戦後　七五〇円
中村雄二郎著　現代情念論　●美と政治との間　七五〇円
東京・神田駿河台2　振替東京175253

洋書は北沢本店!!
KITAZAWA FOREIGN BOOK STORE
英語、英米文学、政治、経済、社会科学、歴史、哲学
北沢本店
神田神保町2丁目　TEL（263）0011番（代）
国語、国文学書は「北沢支店」で!!
TEL（261）1271・3522番
●地下鉄　東西線「九段下」下車　徒歩5分

娯楽の殿堂　日本最大の
ビリヤード・ニツポン（47台）
飯田橋駅西口・警察病院前
5F　スリークッション2台　ポケット5台　四つ台4台　1時間　￥180
4F　四つ玉　12台
3F　四つ玉　12台
2F　四つ玉　12台
初心者無料コーチも致して居ります